

## ソウル日本文化センターのビジターセッション例 － 広報から実施後のアフターケアまで －

三宅 絵梨

ソウル日本文化センター

### 1. はじめに

国際交流基金ソウル日本文化センター（以下、ソウルセンター）では、2002年の設立以降、前期及び後期の二学期制の日本語講座を開講している。2002年から2010年までは、日本語能力試験の1級またはN1取得者を対象とした上級レベルの技能別コースのみだった<sup>(1)</sup>が、2011年度以降、下位レベルのニーズが確認できたことを受け、上級レベルの技能別コースに加え、中級レベルから入門レベルまで順々に新しい下のレベルを開設してきた。そして、2015年度前期以降は、入門(A1)から中上級(B2)レベルまでを総合的に学べる「ステップアップコース」、上級(C1)レベルを技能別の「実践コース」というように受講生がレベルと目的に応じてコースを選択できるように改変した。

また、「ステップアップコース」では、現在、入門(A1)から中級(B1)レベルまでは『まるごと日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）を、中上級(B2)レベルは市販教材『上級へのとびら』をコースブックとして使用しているが、中上級(B2)レベルにおいても、『まるごと』同様JF日本語教育スタンダード（以下、JFスタンダード）準拠のコースデザインを行っており、ことばだけでなく文化の位置づけも重要視している。

なお、受講生の学習目的と属性は、日本語力の向上と維持が最も多く、午後2時から5時までの週1回のクラスは、主に主婦や退職した方で、年齢も20代から70代後半と幅広い。一方、午後7時から8時半の週2回の夜のクラスは、20代から50代の会社員が中心であり、毎学期250名前後の受講生が在籍している。

### 2. 実践の背景

現在、ソウルセンターの講座では、初中級(A2/B1)レベル以上のクラスを対象に、毎学期日本語を母語とするボランティアを募りビジターセッションを実施している。ビジターセッションは、2005年に、「対話技術」というコースに限って設けていたのが始まりで、2006年後期以降は、その他の科目においても導入されている。

ビジターセッションを実施し始めた当初は、担当コースの講師がボランティアを集めており、十分な人数を集める上での難しさがあったが、2006年以降、ソウルセンターが窓口となり募集を実施することになった結果、問題は軽減された。ボランティアの属性は、現在は駐在員の配

偶者や語学留学生、また配偶者ビザを持つ日本人女性が多いが、開始当時は韓国ブームということもあってか、日本からの旅行客も数名応募があったそうだ。

当時の報告書に「ふだん日本人と直接話す機会が少ないせいもあってか、日本語母語話者のボランティアが入った授業はどのクラスも大変盛り上がり、受講生の満足度は高かった」と記されており、日本語母語話者と対面形式でやりとりする需要が再確認されたことだけでなく、その後の需要もコース終了時のアンケートなどから確認できたため、現在まで継続して実施しているという背景がある。

韓国のソウルと聞くと、日本人が多いというイメージがあるだろう。事実、2014年10月1日現在の在韓邦人数は、外務省の統計によれば約3万7千人と他国と比べて割合多く、ソウル市の繁華街などでは日本食の店が立ち並び、日本語を耳にする機会も多い。それにもかかわらず、毎学期、コース評価の一環として実施している学期末のアンケート調査などによると、ビジターセッションに対する受講生の期待度と満足度は非常に高く、今後も継続して実施していくことの必要性を感じている。

では、なぜ、受講生の期待度と満足度が高いのか、ソウルセンターで実施しているビジターセッションの特徴を振り返るとともに、報告者が担当した2015年度前期の日本語中上級コースでの取り組みとその成果を報告する。

### 3. 日本語中上級コースの概要及びカリキュラム

#### 3.1 コース概要

ソウルセンターでは、2014年度後期以降、中上級(B2)レベルのコースを曜日別に昼と夜の時間帯に全3クラスを設置し、各クラスを報告者以外に2名の非常勤講師が担当している。コース目標やコースブック、またコースブックで取り上げる課や項目は昼夜共通であるが、昼と夜のクラスでは、前述の通り、受講生の特性が大きく異なるため、コースブック以外の活動内容やトピックについて理解を深めるための映像や配布資料などは、各クラスの担当講師がそれぞれ受講生のニーズに応じて準備している。

次のコース概要は、報告者が担当した昼のクラスの内容である。

レベル	B2
実施コース名	まるごと日本語中上級コース <sup>(2)</sup>
コース目標	<ul style="list-style-type: none"><li>● 幅広い話題について、母語話者と普通にやりとりができるほど、流暢に自然に話すことができる<sup>(3)</sup>。</li><li>● 筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題などに関するテキストの内容を理解することができる<sup>(4)</sup>。</li><li>● 物語を順序立てて書き、それを発表することができる。また、その物語にどんな教訓や面白さがあるのか、社会や文化的背景を交えながら説明することができる<sup>(5)</sup>。</li></ul>

実施期間	2015年3月9日～6月22日
コース時間	180分(90分×2コマ)×12回
クラスの学習者数	15名(男性:5名、女性:10名)
学習者の属性	主婦6名、会社員5名、教授1名、作家1名、大学院生1名、退職者1名
学習者の学習目的 (複数回答あり)	日本語力向上11名、日本語力維持4名、日本理解2名、趣味2名、留学・ワーキングホリデー1名、就職1名、ボランティア1名
使用教材	『上級へのとびら』(くろしお出版)ほか

### 3.2 カリキュラム

2015年度日本語講座の前期では、『上級へのとびら』の全15課から6課分を3クラス共通で取り上げ実施した。ビジターセッションは、韓国では教育熱が高いと言われていること、また受講生のバックグラウンドや属性に関係なくどの学習者も興味・関心を示すのではないかということ、また、学期中、修了条件として課している課題内容や時期的なことなどを総合的に判断し、第9課の「日本の教育」で実施することとした。

下の表は、左側に「まるごと日本語中上級コース」共通のカリキュラムを、そして右側に報告者が実践した授業内容を示したものである。共通のカリキュラムでは、第9課の教育に関する授業回数を第6回と第7回の全2回(6時間)と設定されているが、報告者の担当クラスでは、実際のところ、第5回からビジターセッションを含めた第7回までの全3回(9時間)で実施する運びとなった。また、進度によって割愛した内容もいくつかある。なお、以下の授業実践内容では、コースブック以外で使用した映像および資料の記述は省略している。

回	月日	カリキュラム内容	授業実践内容
1	3月9日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ オリエンテーション</li> <li>➤ 『上級へのとびら』 第5課:日本の食べ物 読み物「インスタントラーメン 発明物語」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ オリエンテーション</li> <li>➤ 『上級へのとびら』 第5課:日本の食べ物 読み物「インスタントラーメン発 明物語」</li> </ul>
2	3月16日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』 第5課:日本の食べ物 会話「説明する・考えを言う」 第3課:日本のテクノロジー 読み物「人とロボット」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』 第5課:日本の食べ物 会話「説明する・考えを言う」 第3課:日本のテクノロジー 読み物「人とロボット」</li> </ul>
3	3月23日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』 第3課:日本のテクノロジー 会話「依頼する・感謝する」 その他未定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』 第3課:日本のテクノロジー 会話「依頼する・感謝する」 第8課:日本の伝統芸能 読み物「狂言と笑い」</li> </ul>

4	3月30日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第8課：日本の伝統芸能</li> <li>読み物「狂言と笑い」</li> <li>会話「ストーリーを話す」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第8課：日本の伝統芸能</li> <li>会話「ストーリーを話す」</li> <li>物語のあらすじを書く【課題1】</li> </ul>
5	4月6日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第8課：日本の伝統芸能</li> <li>物語のあらすじを書く【課題1】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第9課：日本の教育</li> <li>読み物「日本の教育の現状」</li> </ul>
6	4月13日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第9課：日本の教育</li> <li>読み物「日本の教育の現状」</li> <li>会話「ほめる・ほめられる」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第9課：日本の教育</li> </ul>
7	4月20日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ インタビュー（ビジターセッション）</li> <li>インタビューの報告書【課題2】</li> <li>の前準備</li> <li>インタビューふりかえり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ インタビュー（ビジターセッション）</li> <li>インタビューの報告書【課題2】</li> <li>の前準備</li> <li>インタビューふりかえり</li> </ul>
8	4月27日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第10課：日本の便利な店</li> <li>読み物「自動販売機大国ニッポン」</li> <li>会話「情報を求める・伝える」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第10課：日本の便利な店</li> <li>読み物「自動販売機大国ニッポン」</li> </ul>
9	5月11日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第10課：日本の便利な店</li> <li>その他未定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第9課：日本の教育</li> <li>会話「ほめる・ほめられる」</li> </ul>
10	5月18日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第15課：世界と私の国の未来</li> <li>読み物「世界がもし100人の村だったら」「日本村100人の仲間たち」</li> <li>会話「意見を言う/賛成・反対をする」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第15課：世界と私の国の未来</li> <li>会話「意見を言う/賛成・反対をする」</li> </ul>
11	6月2日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 『上級へのとびら』</li> <li>第15課：世界と私の国の未来</li> <li>会話「意見を言う/賛成・反対をする」</li> <li>➤ 口頭試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 総復習</li> <li>➤ 口頭試験</li> </ul>
12	6月22日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コース全体のふりかえり</li> <li>➤ 口頭試験フィードバック</li> <li>➤ 修了/履修証授与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コース全体のふりかえり</li> <li>➤ 口頭試験フィードバック</li> <li>➤ 修了/履修証授与</li> </ul>

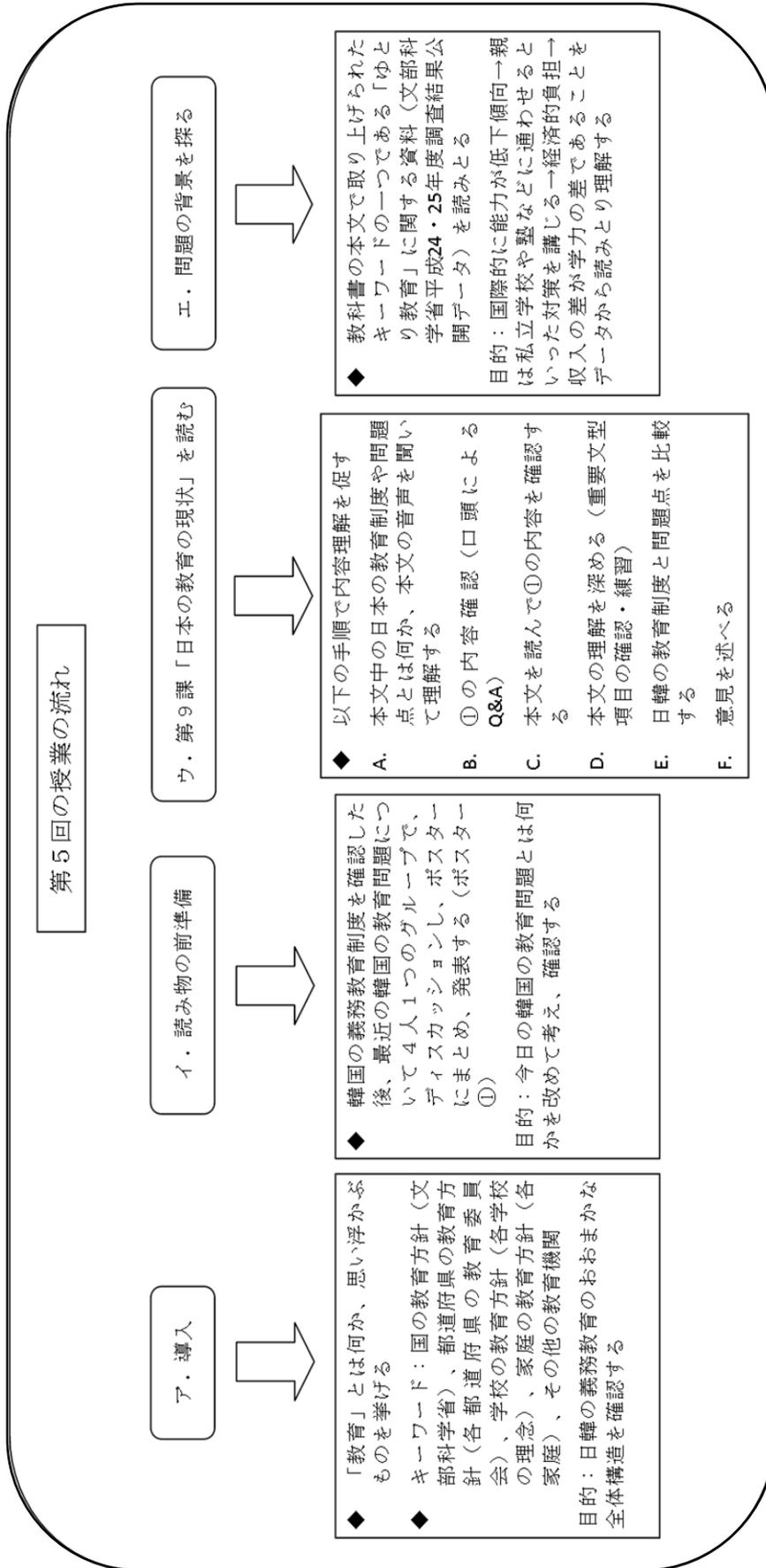
#### 4. ビジターセッションの前準備からセッション当日までの授業実践内容

カリキュラムにもあるように、『上級へのとびら』は、各トピックが主に読み物とロールプレイを中心とした構成内容になっている。第9課では、トピックが「日本の教育」であり、読み物の「日本の教育の現状」とロールプレイの「ほめる・ほめられる」がある。そして、この第9課でビジターセッションを実施するため、読み物とロールプレイのほかに、「インタビューの報告書」という提出課題を設定し、3つの活動を次のような目標 Can-do に定めた。

- ① 日本の教育制度や問題点を理解することができる。また、今日の日韓の教育の問題点と比較し自分の意見をはっきり述べるができる<sup>(6)</sup>。
- ② 日本人のほめる対象（内容）、また日本人のほめられたときの対応の仕方や謙遜の文化などを理解した上で、ほめる側は、場面や状況にあったほめ方をすることができる。また、ほめられる側は、謙遜の気持ちを表しながらやりとりをすることができる<sup>(7)</sup>。
- ③ 日本人ゲストのインタビューから得た情報や議論をまとめることができる。また、それに対し、自国と比較しながら自分の考えを提示することができる<sup>(8)</sup>。

そして、目標 Can-do を達成すべく、教科書で得られる情報のほかに、日韓両国の教育事情について理解を深めるために、次の図1から3のような流れで進め、いくつかの段階においては資料や映像を取り入れた。なお、本報告では、ビジターセッションのための活動と位置付けた目標 Can-do①及び③における活動内容を紹介することにする。

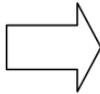
次の図1から3は、報告者が第5回から第7回に実施した授業内容であり、それぞれの活動段階における項目内容とその目的を示したものである。



< 図 1 >

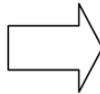
第6回の授業の流れ

オ、日本の現場での  
取り組み例を知る



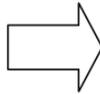
◆ NHK「クローズアップ現代」の「教育現場の“閉鎖性”を変えよう～大阪・教育改革の波紋～」を見て、一人一人に合った学習は可能なのか、公平な環境とは何なのか、現在の大阪の取り組みと課題について知る  
目的：教育委員会と教育現場、家庭との連携がうまくとれていないことに気づく

カ、今、韓国で求められている  
力・能力とは何か考える



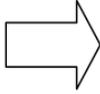
◆ 韓国における学校の教育現場で必要な教育とは何か、4人1つのグループでディスカッションし、ポスターにまとめ、発表する（ポスター②正方形の付箋）  
目的：「頭のよさ」とは何か、時代によって求められる能力は移り変わることを確認し、そして今の世の中で求められる能力と人物像について考える

キ、日本で求められる能力と  
人物像について考える



◆ 以下の月刊『クーリエ』2015年5月号を教師が普読し、受講生は聞いて要点をつかむ。そして、雑誌の本文中の7人の意見から一番共感できる意見を選び、それについて自身の理由を述べる  
「世界のトップランナー7人に聞いた『私が考える頭のいい人の条件』」

ク、理想の教育現場を考える



◆ 各グループでまとめたポスター①と②を参考に、求められる能力を身につけるためにどういった科目や活動内容があったらいいか、4人1つのグループでディスカッションし、ポスターにまとめ、発表する（ポスター②長方形の付箋）  
◆ 「米国のお大学が本気で取り組む『クリエイティブな人』を育てる授業」（時間的制約のため、参考資料として授業終了時に配布）

## 第7回の授業の流れ

ケ. インタビュー活動の目的を再確認

- ◆ ビジターへのインタビューを通して、自身が得たい情報を得ること、また、一日本人の教育に対する考え方を知らることを目的とする。  
目的：インタビュー活動への動機づけ

コ. 課題2（インタビュー活動報告書）とその目標を確認

- ◆ インタビュー後に提出する報告書(課題2)の目標Can-doおよび評価について説明・確認
- ◆ インタビュー及び報告書の表現の導入・確認：伝聞、比較、傾向、その他  
目的：目標を確認し、目的意識を持ってインタビューに臨む

目標Can-do⑧：日本語母語話者のインタビュアーから得た情報や議論をまとめ、自国と比較しながら自分の考えを提示することができる。

サ. インタビュアテーマを決定

- ◆ ポスター活動と同じグループで、インタビューテーマを決定
- ◆ セッション当日のインタビュー進行役を各グループ1名選出
- ◆ インタビュアの時間は1時間程度と限られているため、グループ内でインタビュー内容に優先順位をつける

グループA：部活動について  
グループB：大学教育の現在と未来  
グループC：ゆとり教育  
グループD：グローバル人材の育成

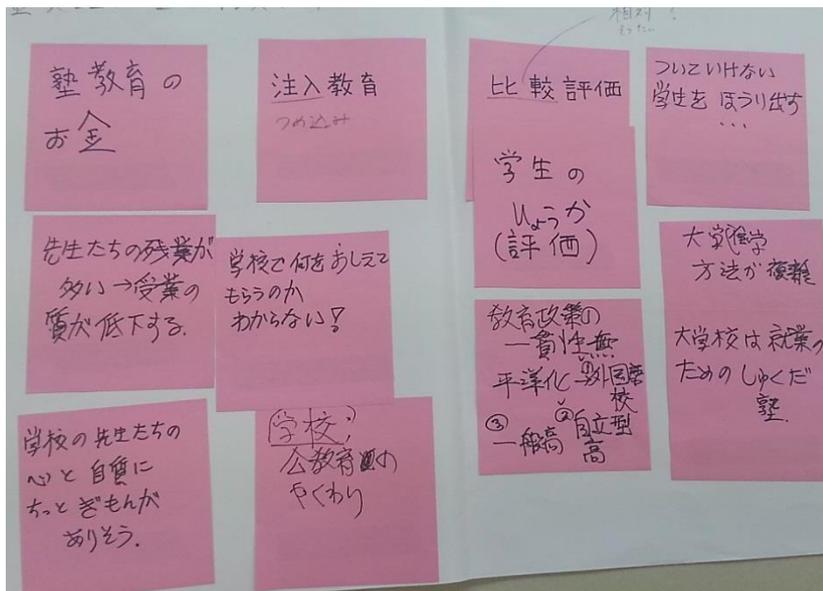
シ. インタビュアー（ビジターセッション）の実施&ふりかえり

- ◆ 各グループに1名ずつ、ビジター（計4名）に入ってもらい、インタビューを60分～70分間実施。ビジターには、事前それぞれの授業の流れと受講生の反応をメールにて共有しておく。当日は、11名の受講生が出席。
- ◆ セッション後、全体でふりかえり

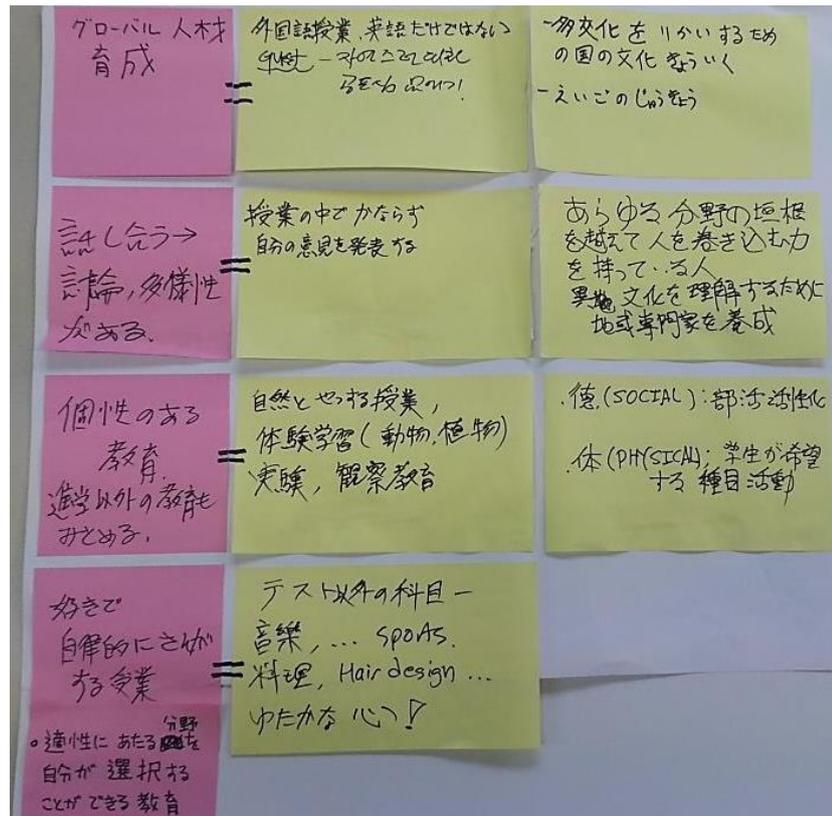
## 5. 第5回から第7回までの授業及びインタビュー報告書の成果

図1と図2のアからオの活動は、「日韓の教育の問題点を比較し、それに対して自身の意見を述べる」という目標 Can-do を達成すべく取り入れ、更に、日韓の教育について理解を深めるため、図2のカからクの活動を取り入れた。また、その一連の活動を可視化するために、ポスター作成を活動に入れた(ポスター①、②参照)。それらを取り入れた報告者側の意図としては、目標 Can-do を達成する過程で、ただ両国を比較して教育の問題点や理想についての考えや意見を述べるにとどまらず、受講生が主体的に教育について考えることによって、日韓社会の根底にあるものは何なのかを改めて考えてほしかったからだ。また、そうすることにより、ビジュアラーセッションでのインタビュー内容もそこから得られる回答も、インターネットやメディアでは得られないよりリアルなものになるだろうことを期待したのだ。実際、授業では、教育というトピックを越えたところまで話が深まったのだが、それは、今ふりかえると、受講生の属性や経験が大きく関係しており、この学期の受講生だからこそ可能だった議論だろうという印象を持っている。

<ポスター①：「韓国における教育の問題点」(グループD作成)>



＜ポスター②:「韓国の学校で必要な教育」(正方形の付箋)と「理想の具体的教育活動」(長方形の付箋)(グループD作成)＞



ビジターセッションの成果については第6章で取り上げるが、セッション当日は、どのグループも大いに盛り上がり、事前にグループで準備した資料を用いながらビジターと積極的に議論を深めているグループもあった。

また、上記の目標 Can-do③で提出課題に設定したインタビューの報告書は、出席した全員が目標を達成し、セッション中に得られた情報を日韓における相違点や類似点などを比較しながらまとめ、最後に自身の意見を簡潔に述べた受講生が多かった。印象的だったのは、「未来を担う子供たちが夢を描いて邁進する際、時代の流れとともに変化する問題とどう向き合い、どう彼らに寄り添っていったらいいのか自身の役割を考えた」という葛藤しつつも前向きな受講生の視点があつたことだ。



＜ビジターセッション当日の様子＞

## 6. ビジターセッション実践の成果

以下のアンケート結果（11名に配布し、11名から回収）を見ると、全員が「満足」と答えており、ビジターセッションへ反応は概ねよかったことがうかがえる。

特筆すべきことは、自身が得たい情報を全て得られたわけではないにもかかわらず、日本語学習への動機が強まっている点であり、更には、ほとんどの受講生が、今後もビジターセッションの実施を希望している点であろう。インターネットが日本以上に普及し、食事の割勘も重要な契約の際も、その場で携帯電話を使用しインターネットバンキングでの支払いが行われるほど日常生活に深く浸透している韓国だが、下のアンケートの質問項目⑤の「ぜひあったほうがいい」を選択した理由として、「外国の生きている情報は簡単には得られないため」とコメントしている受講生がいる。これは、インターネット上で得られる情報とは明らかに区別し、日本語を母語とするボランティアから直接得られる情報に、より価値を置いていることがわかる。また、このインタビュー活動を通して、学習者自身の日本語力をふりかえるきっかけにもなったようで、「やはり、理論と実際は違って、もっとふさわしい表現を練習する」必要性を実感した受講生もいる。最も大きな反響としては、「ビジターに会い、もっと日本と日本人が好きになった」や「日本人から話を聞いて、もっと意欲が出た」というコメントのように、言語学習の原点でもあると言える「人との出会い」に喜びを改めて感じ学習意欲が高まった点だろう。このように、直接会い、日本語母語話者と生のコミュニケーションをすることが、学習者にとって非常に有意義であるということが、アンケートの調査結果から読み取ることができた。その一方で、中にはネガティブな回答を残した受講生が1名いたが、その理由として、「一回の機会はそんなに役に立たない」として、回数の必要性を問うものだった。

### <アンケート結果>

- ①日本人のボランティアゲストの授業はどうでしたか。

大変満足（6名）	やや満足（5名）	やや不満（0名）	大変不満（0名）
----------	----------	----------	----------

- ②日本人ボランティアへのインタビューを通して、自分の得たい情報が得られましたか。

十分に得られた （5名）	少し得られた （6名）	あまり得られなかった （0名）	全然得られなかった （0名）
-----------------	----------------	--------------------	-------------------

- ③日本人のボランティアの授業を通して、日本語学習の課題（弱点や今後努力したい点）が発見できましたか。

たくさん発見できた （1名）	少し発見できた （9名）	あまり発見できなかった （1名）	全然発見できなかった （0名）
-------------------	-----------------	---------------------	--------------------

- ④日本人のボランティアゲストの授業を通して、日本語学習への意欲が増しましたか。

とても増した （5名）	やや増した （5名）	あまり増さなかった （1名）	全然増さなかった （0名）
----------------	---------------	-------------------	------------------

⑤日本人ボランティアゲストの授業が今後もあったらいいですか。

ぜひあったほうがいい (8名)	できればあったほうが いい(2名)	なくてもいい (1名)	ないほうがいい (0名)
--------------------	----------------------	----------------	-----------------

## 7. ソウルセンターにおけるビジターセッションの位置づけ

第2章で述べた通り、在韓邦人数は約3万7千人と決して少なくなく、ソウルの観光スポットへ行けば、日韓外交や歴史認識に関する問題がメディアで取り上げられている今日でさえ、日本人を目にすることは珍しくない。また、交流という点から述べれば、日本人との交流を目的としたボランティア団体やSNSによる集まりなど、気軽に参加できるものはある。それ以外にも、観光スポットを始め、食堂やカフェなどで韓国人が日本人に話しかけるなどして、簡単なやりとりをしている場面は時々見かける。3年弱の在韓歴の報告者自身も、そのような場において日本語で話しかけられたことはこれまでに何度もある。つまり、韓国のソウルに限って言えば、韓国人が日本人とごく簡単で表面的な挨拶といった交流程度であれば、機会を得るのは困難だとは言にくい。

そのような環境下、ソウルセンターでは、ビジターセッションを、日本語母語話者と会って楽しく自由に会話をするというのが第一の目的ではなく、授業の一環として、受講生に「学びの場」や「学習成果を見る」という位置づけで実施している。そのため、ビジター募集の段階で、まれに韓国旅行を予定している日本の方から応募が来るのだが、その場合は、現在お断りしている。特に、中上級レベルともなると、日本旅行の経験はもとより日本の大学院で博士課程を修了した方まで、日本について幅広い知識や経験を有する受講生が多いため、日韓双方の文化体験を共有できたり比較できたりする韓国在住の方に限定している。この点について、受講生がビジターセッションを期待し、実施後の満足度が高い理由の一つだと報告者自身は考えている。

## 8. ビジター募集からセッション終了後まで

ここでは、ソウルセンターにおけるビジターセッションのボランティア募集から終了後までの事務的な流れ及びソウルセンター側の留意点を紹介する。

### i. ソウルセンターのウェブサイト、facebook、掲示板で募集開始

応募連絡の際には、氏名、電話番号、メールアドレスの提示をお願いしているが、こちら側から登録完了のお知らせをする際には、ウェブサイト等の募集時に加え、登録希望者に以下の点をメールにて明示している。なお、継続登録者にはビジターセッションのお知らせをメールにて別途案内している。

- ゲストに来ていただく日時は各クラスにより異なります。
- 日程が決まり次第、改めてお知らせをお送りいたしますので、ご都合のよろしい日時にご参加いただければ幸いです。
- 日本語の授業ですので、使用言語は日本語をお願いいたします。
- 事前に準備していただくことは、特にございません。(担当講師よりディスカッションのテーマなどをお知らせすることはございます)
- 交通費のみ(一日：一律1万ウォン)のお支払となりますが、ご了承ください。

## ii. スケジュール調整とその留意点

ある一定の人数が集まり募集を終了した後、登録者には各コースのビジターセッションの日程と希望人数をメールにて知らせ、都合のつく日に丸(○)を記入し返送してもらう。その際、コースによっては2か月先に実施する場合もあり、登録者の都合が変更する可能性もあるので、キャンセルも可能であることを明示している。また、各学期の登録者の人数によっても異なるが、ビジターのメンバー構成をする際、可能な範囲でコースごとの継続登録者と新規登録者のバランスを考慮している。新規登録者には、授業や受講生の雰囲気など、後述のブリーフィングでの口頭説明では伝えきれない部分があり、緊張する場合があることを考慮しているためだ。また、学期中、ビジターセッションを複数回設けているコースに限っては、担当講師に予めビジターのメンバー構成について希望を聞き、調整を行っている。例えば、学期中2回実施する上級コースの「スピーチ&ディスカッション」では、担当講師によれば、2回目の際、1回目と同じビジターとディスカッションすることで、初対面の場合より面識がある分、自己開示が早くなり、より活性度の高い授業が期待できるとのことで、2回とも同じビジターを迎え入れられるよう調整している。

## iii. スケジュール確定後、登録者及び担当講師にメールにてお知らせ

当日のセッションを進行しやすくするために、新規登録者にはビジターセッションの前に、簡単なプロフィールを提出してもらう。事前準備の際、担当講師が受講生にビジターの属性や出身、在韓歴などを伝えることで、同じ日本語母語話者であっても考えや意見だけでなく、話し方も異なる可能性があることを動機づけできるだけでなく、初対面ではあるが安心してビジターを迎え入れることができるといった利点がある。そして、スケジュールの確定後、担当講師にビジターの氏名や連絡先に加え、そのプロフィールも共有するようにしている。

## iv. 事前ブリーフィング

担当講師が、一週間前に、どういった経緯でビジターセッションをするに至ったのか、授業

の流れや受講生の反応などをメール等で簡単に報告し、当日の流れや内容等をお知らせしている。コースによって、インタビューやディスカッション、また受講生の最終発表の審査員として迎え入れるなど様々で、ビジターに事前に伝える内容は異なる。報告者が担当したインタビュー活動では、一般的な考えや意見というよりは、ビジター自身の率直な考えを受講生に話してほしいと希望した。それが、ネットやメディアでは得られない情報であり、受講生にとって貴重な体験となると考えたからだ。また、当日の授業の前に、どのコースも10分程度、ビジター全体で内容の再確認やクラス内の様子などを伝える場を設けており、その際に交通費の支払いも行っている。

#### v. アフターケア

担当講師によって異なるが、セッション後のフィードバックで得られた内容をメールで報告したり、あるコースによっては、過去に受講生がビジターにお礼の手紙を書き、郵送したりすることもあった。このようなやりとりを通して、ある継続者の方からは、「毎学期、本セッションを楽しみの一つにしている」といったコメントや「ビジターセッションを通して新たに学ぶことがあり、刺激的だった」というコメントをもらったことがあるのだが、今後もこのようなアフターケアは継続して行っていきたい。なお、今学期（2015年度後期）以降、ビジターとの会食を計画しているのだが<sup>9)</sup>、受講生だけでなくビジターの声も拾い、今後のセッションに活かせたらと思っている。

#### vi. 運営上の留意点

ソウルセンターがビジターセッションを実施する上で留意している点は、セッション中に意気投合するなどして、ビジターと受講生が個々でメールアドレスや電話番号の交換などをする以外は、双方の連絡先など個人情報を提供しないということである。ビジターセッションは、ボランティアの協力なくしては実現しないものであり、継続していく上で信頼関係が鍵となるのは言うまでもなく、実施する側はビジターに安心してもらえるよう環境を整えている。

### 9. 課題と展望

前述の通り、一週間前に各講師がビジターにセッション当日の流れなどを連絡するようにしているが、そこで講師側が伝える内容がセッション当日の受講生の満足度に影響すると感じている。こちら側が、どういった経緯や目的でビジターを迎えるのか、同時にビジターの当日の役割は何なのかということを示しておく必要があるだろう。とはいえ、ボランティアという立場の方への依頼内容は慎重にならなければならず、その辺のさじ加減が微妙に難しい。

今後は、教室内にとどまらず、国際交流基金のほかの海外拠点を実施しているような課外活

動例も参考にしたい。また、これまで中級(B1)レベル以上のコースで積極的に実施してきたのだが、2015年度後期から初中級(A2/B1)レベルのコースにおいてもビジターセッションを試験的に取り入れてみた。その結果、受講生から「ビジターセッションを通して、今まで習った内容をもう一度復習する機会を持ちながら、次の中級レベルを考える良い機会になった」といった自律学習に重要な自身の学習をふりかえるコメントがあった。また、「今まで習った日本語で、普通の日本人が理解するかどうか知りたかったが、よくできた。激励を受けながらももう少し努力すればもっとよくできると言ってくれたので、一生懸命しなければと思った。ゲストとの出会いは、ほかのコースでもあったらいい」というコメントに加え「(まだ) 初中級レベルだけれど、日本人と直接対話できて自信がついた」といったビジターとの出会いを通して学習動機が増した点について言及しているコメントなど、前向きに捉える受講生がほとんどだった。今後は、これらの結果を踏まえ、『まるごと』のコンセプトをうまく活かしながら下位レベルにおけるビジターセッションの導入も同時に検討していきたい。

[注]

- (1) コースの空き状況により、ソウルセンターが、日本語能力試験1級またはN1レベル相当と判断した申請者に限り受講可とした。
- (2) ソウルセンターでは、入門(A1)レベルから中級(B1)レベルまで『まるごと』(試用版含む)をコースブックとして使用しており、中上級(B2)レベルのコースにおいてもそれらのレベルのコース名と統一するために「まるごと日本語中上級コース」としている。
- (3)~(8) 元になった JF スタンダード Can-do は以下の通りである。

注	元になった Can-do	レベル/カテゴリー
3	母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。	CERF B2.1 やりとり 「口頭でのやりとり全般」
	自分の関心や専門分野に関連した、身近な日常のおよび非日常的問題について、自信を持って話し合いをすることができる。広報を交換、チェックし、確認できる。あまり日常的でない状況にも対処し、問題の所在を確認できる。映画、書籍、音楽などの抽象的な文化的話題について、自分の考えを表現できる。	CERF B1.2 やりとり 「口頭でのやりとり全般」
4	筆者が特別の立場や視点から取り上げた、現代の問題に関する記事やレポートを理解できる。	CERF B2.2 受容 「情報や要点を読みとる」
5	本や映画の筋を順序立てて話し、それに対する自分の考えを述べることができる。	CEFR B1 産出 「経験や物語を語る」
6	筆者が特別の立場や視点から取り上げた、現代の問題に関する記事やレポートを理解できる。	CEFR B2 受容 「情報や要点を読みとる」
	身近な話題についての簡単な新聞記事から重要点を取り出すことができる。	CEFR B1 受容 「情報や要点を読みとる」
	母語話者を相手に、お互いにストレスを感じさせることなく、普通の対話や関係が維持できる程度に、流暢に自然に対話できる。個人的に	CEFR B2.1 やりとり 「口頭でのやりとり全般」

	重要な出来事や経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。	
7	目標言語の文化と当人自身の文化との間の、慣習、言葉遣い、態度、価値観や信条について、最も重要な違いに対する認識があり、それを配慮することができる。	CEFR B1 社会言語的な適切さ
	明示的な礼儀慣習を認識しており、適切に行動できる。	CEFR B1 社会言語的な適切さ
	感情表現、間接的な示唆、冗談などを交ぜて、社交上の目的に沿って、柔軟に、効果的に言葉を使うことができる。	CEFR C1 やりとり 「社会的なやりとりをする」
8	自分の専門範囲の日常のもしくは非日常の事柄について、集めた事実情報をもとに、総括し、報告できる。また、それに対し、ある程度の自信を持って自分の意見を提示することができる。	CEFR B1.2 産出 「レポートや記事を書く」
	いろいろなところから集めた情報や議論をまとめることができる。	CEFR B2.1 産出 「レポートや記事を書く」

(9) ソウルセンターの中等教育支援におけるボランティアも含む。

#### [参考文献]

国際交流基金(2013, 2014) 『まるごと 日本のことばと文化』 「入門(A1)」 「初級1 (A2)」 「初級2 (A2)」 「初中級(A2/B1)」 三修社

岡まゆみ ほか(2014) 『上級へのとびら』 くろしお出版

「各界のトップランナー7 人に聞いた『私が考える頭のいい人の条件』」 pp.50-53, 『COURRiER Japon (クーリエ ジャポン)』 2015年5月号 特集「『頭がいい人』の条件が変わった」講談社

「米国の大学が本気で取り組む『クリエイティブな人』を育てる授業」 pp.30-33, 『COURRiER Japon (クーリエ ジャポン)』 2015年5月号 特集「『頭がいい人』の条件が変わった」講談社

#### [参考サイト]

海外在留邦人数調査統計 平成27年要約版 (PDF)

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000086465.pdf> (2015年11月13日参照)

文部科学省報道発表「平成25年度学校基本調査 ―平成25年度(速報)結果の概要―」

[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/houdou/\\_icsFiles/afiedfile/2013/08/07/1338338\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/houdou/_icsFiles/afiedfile/2013/08/07/1338338_01.pdf) (2015年4月6日参照)

「IEA 国際数学・理科教育動向調査の2011年調査 (TIMSS2011) の結果」

①国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS2011) のポイント

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/24/12/1328789.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/12/1328789.htm) (2015年4月6日参照)

②国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS) における算数の成績 (小学校)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/24/12/\\_icsFiles/afiedfile/2012/12/12/1328789](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/12/_icsFiles/afiedfile/2012/12/12/1328789)

\_02.pdf (2015年4月6日参照)

「平成24年度『子供の学習費調査』の結果について」

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa03/gakushuui/kekka/k\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2014/01/10/1343235\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa03/gakushuui/kekka/k_detail/_icsFiles/afieldfile/2014/01/10/1343235_1.pdf) (2015年4月13日参照)

NHK 『クローズアップ現代』「教育現場の“閉鎖性”を変える～大阪・教育改革の波紋～」

[http://www.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail\\_3470.html](http://www.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail_3470.html) (2015年4月13日参照)